

ダイニック株式会社

代表取締役社長

大石 義夫氏

▶ interviewer

頭取 大道 良夫

東京支店長 小八木 一男

## 布や紙やフィルムをさまざまな姿に変えて 「素材の力」で暮らしを豊かに彩る。

装幀用クロス、壁紙、各種フィルター、衣料用芯地、自動車内装材、情報関連素材。多様な中間素材を創造するダイニック株式会社。その根底には「暮らしを豊かに彩りたい」との使命があり、高度なコーティング技術の進化がある。

### 装幀用クロスの歴史を拓き 日本の書籍文化を支えた

大道●書籍の表紙に華やかさや重厚さを添えるとともに、後世に伝えられるよう堅牢さを合わせもつ装幀。とりわけ書籍への愛着を高めるのが、表紙や背表紙の豊かな布クロスの風合いだと思えます。ダイニックさんは1919年に京都・西陣で創業されて以来、この装幀用クロスの国産化を目指してわが国の書籍装幀を支えてこられました。

大石■当社の起源となる装幀用クロス以外にもインテリア・住宅向け素材、自動車・工業向け素材、情報関連をはじめとするさまざまな製品を手掛けることで、暮らしと社会に豊かさや快適さをお届けする総合中間素材メーカーとして発展してきました。私たちは西陣の地で培った染色の深い技術をベースにしなから、日本の装幀文化に寄与してきたことに大きな誇りを持っています。

大道●創業当時、英国製のクロス等に頼るしかなかった装幀事情に着目され、湿気の多い日本の気候に適した国産クロスの生産に乗り出されたそうですね。  
大石■それから一世紀近くを経た現在でも、豪華な書籍や上製本に高級感を添えるために、多様な色彩、風合いの布

クロスを開発するとともに、ダイアリーやビジネス手帳、オフィス用ファイルやバインダー向けにはファッショニステータスに富む多様な紙クロスやビニールクロスを提供。教科書やキャンペーンにも当社が提供しています。  
大道●当社の通帳もダイニックさんのクロスで作られています。美しいことはもちろん、手触りや耐久性などの機能面にも配慮されているのが、御社の技術力なのでしょうね。クロス以外の製品に目を転じて、その多様さに驚かされます。私たちの暮らしの中でどのようなものに御社の製品が使われているのか教えてください。  
大石■この滋賀工場を手掛けているもの

のを中心にご紹介しましょう。当社の生産拠点は埼玉工場、王子工場など全国に5カ所。78年に開設した滋賀工場は甲子園球場の9個分にあたる約34万㎡の敷地を持ち、埼玉工場と並ぶダイニックの基幹工場です。  
小八木●本場に自然豊かな環境ですね。敷地内には私設の天文台「ダイニックアストロパーク天究館」やミニゴルフ場まであるそうですね。

### 壁紙やフィルターを中心に 多様な製品を生産する滋賀工場

大石■滋賀工場で生産する主要製品の1つが壁紙です。原紙に塩ビ樹脂のペースト

(糊材)をコーティングして厚みや耐久性を付加し、発泡させることで美しく仕上げられています。その上にさらに多様な機能性を加えることが当社の自慢です。臭いを吸着する消臭壁紙、子供の落書きを簡単に消せる汚れ防止壁紙など、独自の機能性製品として好評をいただいています。その他、住宅関連の床材用不織布緩衝材「スキップ」も滋賀工場で作っています。

大道●物を落とした際などの衝撃音を吸収できる床材に使われる不織布製品ですね。不織布はクロスと並ぶ御社の大きな柱とお聞きしています。  
大石■おっしゃる通りです。「織らない織物」として第二次大戦後に欧米から導入された不織布。当社では56年に不織布事業に進出し、洋服の芯地や和装の帯芯へと不織布の可能性を広げてきました。現在では自動車内装材をはじめ、自動車のエンジンフィルターやエアコン用キャビンフィルター、空気清浄機用フィルターといったフィルター類。展示会の通路やブース内に敷くカーペットなどの床材はニッチな市場ながら、国内シェアの4割。他に、ここ滋賀工場を手掛けるパップ剤の剥離フィルムでは7割のシェアを有しています。

大道●湿布薬等のパップ剤に塗られた粘着剤が外包装とくっつかないように



通帳・クロス用の加湿工程で左から、大道頭取、大石義夫社長、小八木支店長



ダイニック株式会社 代表取締役社長  
大石 義夫 (おおいし・よしお) 氏

1950年生まれ。74年、ダイニック株式会社に入社。国際部長、昆山司達福紡織有限公司総経理、取締役副社長等を経て2012年に代表取締役社長に就任。

# 経営理念

技術の優位性  
人の和

# 経営の基本方針

“For The Customer”

## 会社概要

### ダイニック株式会社

- 資本金/57億9,565万円
- 従業員数/606名
- 事業内容/書籍装幀用クロス、文具紙工品用クロス、インクリボン、各種印刷用素材、自動車内装材、各種フィルター、不織布、衣料用接着芯地、壁紙、カーペット、食品容器密封用アルミ箔・フィルムなどの製造・加工および販売
- 京都本社所在地/  
京都市右京区西京極大門町26
- 東京本社所在地/  
東京都港区新橋6-17-19新御成門ビル
- URL/http://www.dynic.co.jp/

### 沿革

- 1919年 日本クロス工業株式会社を京都西陣で設立
- 1956年 不織布事業に進出
- 1964年 深谷工場竣工(現・埼玉工場)
- 1967年 台湾科楽史工業股份有限公司を設立
- 1974年 ダイニック株式会社へ社名変更
- 1978年 滋賀工場竣工(京都から移転)
- 1987年 アストロパーク天究館を開設
- 1997年 滋賀工場がISO9001、ISO14001、ISM(壁紙)の認証を取得
- 2000年 有機EL用水分除去シートを開発



滋賀工場

な取り組みをしている工場だと自負します。VOC(揮発性有機化合物)排出ガスを蓄熱燃焼式処理装置で処理するなどの空気質浄化、琵琶湖から取水した工業用水を取水時よりきれいな水にして戻す水質浄化、LED照明への切り替え等の省エネの推進や緑化への取り組みも進めています。また、壁紙製造工程で発生する廃棄物を再資源として活用するリサイクルシステムも構築しています。

**大道**●自然との共生だけでなく、周辺コミュニティとの共生にも滋賀工場は極めて熱心ですね。その象徴が敷地内にある「ダイニックアストロパーク天究館」。県内最大の60cm反射望遠鏡を備え、週末の館内見学や天体観望会を開催しておられます。

**大石**■空気の澄んだ夜空に恵まれているこの地域だからこそ天文台です。地

域の子供たちに「星を観ることの素晴らしさ」を知ってもらい、夢を広げてもらえればと思っています。地元の小中学生で構成する多賀町アストロクラブも運営。星の観察だけでなく自然観察や地域清掃にも取り組み、自然や地域を愛する心を育てています。

**大道**●社員さんが120もの小惑星を発見されて、「タガ」「ビワコ」などと命名されたとお聞きしています。

**大石**■東日本大震災復興支援の一環として、被災地の福島県富岡町にちなんで命名した小惑星もあります。これからも「星のロマン」を地域の皆さまに伝えていきたいと思っています。

**機能的ですぞ野の広い製品を 海外10拠点から世界に広めたい**

**大道**●地球規模の視野といえば、ダイ

ニックさんはグローバル展開にも積極的に、世界に10カ所の海外拠点を構えておられます。

**大石**■当社の海外進出は1967年、台湾工場の設立から始まります。その後、シンガポール、香港、そして88年にアメリカ、89年にイギリスに進出。93年に開設した中国昆山では接着芯地を生産し、2013年にタイ工場ではフィルター用不織布のプリント加工を行うなど、海外での生産比率は年々高まり、現在では30%近くに達しています。今年の10月にはインドネシアに新たな工場を開設。現地のモーターリゼーションの進展を見据えて、自動車内装材の生産拠点にしようと考えています。

**大道**●壁紙や装幀用クロスをはじめ御社の製品は日常生活に深く関わるもの

ばかりなので、新興国での需要拡大が大いに期待できそうですね。

**大石**■各拠点の一層のレベルアップを図って、ダイニック製品を海外に広めていくための足掛かりにしていきたいですね。国内需要では、今後の伸びを期待できそうなのが埼玉で生産する熱転写リボン。かつてはプライスタグ印字用途で伸びた製品ですが、最近は食品包装フィルムへ製造や賞味期限の年月日などの表示が義務化されるなど、需要拡大が見込めます。不織布についても、さらに高機能な製品を創造することで用途を広げていきたいですね。

**大道**●御社の合言葉は「For The Customer」。これからも私たちの暮らしの豊かさ、快適さを支えていってください。本日はありがとうございました。



成長が期待される「有機EL水分除去シートHGS」



当行の通帳にも使用されている銀行通帳用クロスの見本帳

するフィルムですね。開封まではしっかりと密着し、使用時には簡単に剥がせる性質が求められる素材ですが、その機能はどのようなものですか？

## 高度なコーティング技術と 多彩な仕上げ技術を自在に駆使

**大石**■基材表面に凹凸模様を形成するエンボス加工は、当社が長年にわたって積み上げてきた技術によって実現されています。ここでダイニックが持つ基礎技術をご紹介します。私たちが、どのように布を多様なクロスに仕上げるのか、紙から高付加価値の壁紙を作り出すのか、不織布を高機能なフィルターに生まれ変わらせるのか。その技術力の一つが、さまざまな基材の上に「必要な特性を持つ素材」を塗り重ねていくコーティング技術です。装幀用クロスでは布に樹脂を含浸させたうえで、ペースト状に何層も塗り重ねることで、堅牢性や風合いを生み出します。ベースになっているのは西陣で育んだ染色加工の技術です。

**大道**●埼玉工場で生産される熱転写リボンは、4・5ミクロンという極薄のフィルムに5層ものコーティングをされているようですね。優れた技術であることは私にも分かります。

**大石**■その他にも品質表示ラベル「ニツ

クセパン」の形成に用いる多孔性コーティング、ホワイトボードを作るための反応性コーティングなど多岐にわたるコーティング技術を独自に進化させ、さらに着色、印刷、染色、防水といったさまざまな仕上げ技術と組み合わせることによって、布や不織布、紙やフィルムをバラエティー豊かな中間素材として作り上げることができま

**大道**●先ほどのエンボス加工も優れた仕上げ技術ですね。凹凸を形成するから剥がしにくい。その技は、生クリームが外包装に付きにくくするスイーツ用の剥離フィルム等の食品用途にも広がっていますね。

**大石**■滋賀工場では創業以来の伝統的なペーストコーティングを技術力かなめの要にしています。先端分野にも活用しています。新世代ディスプレイとして期待される有機ELを長寿命化するための乾燥材「HGS」もその一つです。

**小八木**●たしか有機ELは水分に弱く、水分が侵入すると酸化現象を起こすと聞いたことがあります。

**大石**■「HGS」は特殊な酸化カルシウム



「アストロパーク天究館」の60cm反射望遠鏡

で水分を吸着するシートです。クリーンルームの密封作業で作るデリケートな製品のため高価ですが、高級デジタルカメラやWiFiルーター等への採用が着実に広がり、今後の成長が期待されます。現在、滋賀工場の開発技術センターでHGSの用途開発を研究していますが、未来を担うアイデアが滋賀から生まれるかもしれません。

## さまざまな環境負荷低減に取り組み 自然や地域社会との共生を推進

**大道**●滋賀工場は「ハイテクと自然との調和を目指すモデル工場」であるとお聞きしています。野生動物も息する豊かな自然との共生を、どのように進めているのかお聞かせください。

**大石**■環境負荷低減に対してさまざま